

国土交通副大臣へ要請行動

2020年度税制改正、自然災害への対策強化に

11月21日、JR連合は、2020年度税制改正要望に加えて、自然災害による鉄道被災からの復旧・復興、防災・減災への支援等にむけて、御法川信英国土交通副大臣への要請行動を実施し、貨物鉄産労からは小笠原副委員長が参加しました。JR連合国会議員懇談会から、榛葉賀津也会長（参議院議員）、泉健太副会長（衆議院議員）、小川淳也事務局長（衆議院議員）、大串博志幹事（衆議院議員）の4議員とともに力強く訴えました。



冒頭、榛葉会長が「JR北海道、JR四国、JR貨物については、未だ経営自立の見通しが立っていない。税制支援が引き続き必要である。また、近年相次ぐ自然災害による鉄道被災の多くは鉄道用地外からの土砂や河川氾濫によって拡大している。その復旧は他のインフラと違い、鉄道事業者自らの資力で行わなければならない」と訴え、続いてJR連合の荻山会長からは、JR貨物関連項目を中心に税制支援措置の延長とともに恒久化を求めつつ、「税制に加えて、多くの支援措置を講じていただいている。しかし、2020年度には大きな助成策が終了し、2021年度からの次なる支援にむけた法改正を伴う議論が俎上に上がる。この段において単に弥縫策ではない、将来の経営自立への道筋を描く議論を求めたい。JR連合としても様々な観点から政策提言を発するので、ご検討いただきたい」と訴えました。加えて、国土交通省が鉄道用地外からの災害対応に関する検討会を立ち上げたことに触れ、「林野庁とも連携した事前防災等の取り組みは、現場からの切実な意見であり、JR連合の提起を受け止めていただいた」と感謝を述べ、今後の議論展開に期待を示しました。さらに、各単組代表者からは、要望項目と関連する諸課題について発

言したあと、御法川副大臣からは、税制改正要望実現に取り組んでいることに加え、自然災害の事前防災、貨物鉄道モーターシフトの必要性、将来の自立経営を前提とした支援のあり方について、JR連合からの主張を踏まえつつ、検討を進めていく旨の姿勢が示されました。

第10回JR貨物連合定期大会

11月30日、都内において第10回JR貨物連合定期大会を開催しました。大会開始前に、度重なる自然災害で犠牲になられた方々に哀悼の意を捧げるため黙祷を行いました。山田事務局長による開

会挨拶後、資格審査を経て大会が成立し、小山（貨物鉄産労）代議員を議長に選出しました。辻村事務局次長からのスローガン（案）提起後、大杉会長の挨拶では、世の中の情勢・会社状況・安全・組織・政策・政治等の課題や取り組み等を述べられました。

来賓には、交運共済松岡理事長・JR連合北村グループ担当部長の3名にお越し頂き、松岡理事長からは、「甚大な自然災害が多く発生しており、皆様が入入している保険を今一度見直し、加入・増口を検討して頂きたい。また、日頃から共済を有効的に活用して頂き、今後とも共済の取り組みに、ご理解・ご協力をお願いしたい」と挨拶されました。続いて、

と挨拶されました。続いて、JR連合を代表し、荻山会長からは、「定期大会のご盛會誠にありがとうございます。日頃からJR連合の諸活動にご協力頂き感謝申しあげます。貨物における政策課題については、JR連合として責任をもって対応していきたい。JR連合に結集する仲間のグループ会社は94単組となり、JR7単組と合わせ101になった。今後JR連合は、しっかりと支援行動し貨物連合がさらに飛躍していくことを期待している」と挨拶されました。

続いて、今年度、南関東ロジに加入した5名中の3名が参加しており、順に紹介し荻山会長から激励を受けました。

次に、辻村事務局次長より、2018年度活動報告・2018年度決算・2019年度予算（案）・2019年度活動方針（案）が読み上げられ、質疑応答に入りしました。集約答弁後、スローガン

（案）・活動方針（案）・2019年度予算（案）が満場一致で可決され、続いて、役員改選を行い新しい執行部体制が成立し、新役員挨拶後、議長を解任し、山田事務局長より、大会宣言（案）を読み上げ採択し、木村副会長による閉会挨拶後、大杉会長による「団結ガンバロー」で、会は成功に閉会しました。

終了後、場所を移動し、懇親会を開催し、仲間との交流をさらに深めました。

「2019年度役員体制」
会長・大杉正美（貨物鉄産労）
副会長・石井亘孝（中国ロジ）
副会長・木村龍雄（九州ロジ）
事務局長・山田春信（南関東ロジ）
事務局次長・小山達礼（貨物鉄産労）
事務局次長・辻村和裕（貨物鉄産労）



松岡理事長



大杉会長



JR連合荻山会長

懇親会



団結ガンバロー

新しく加入した南関東ロジの仲間



小山議長



第6回貨物連合安全ディスプレイション開催

第10回貨物連合定期大会終了後、第6回貨物連合安全ディスプレイションを開催し、辻村本部長（貨物鉄道労）が進行役を務め、来賓にJR連合より、荻山会長・尾形事務局長・北村部長・中山部長をお招きしました。過去に発生した脱線事故や死亡労災、最近起きた事象等を取り上げ、なぜ起きてしまったのか、防ぐことは出来なかったのかを議論し、再発防止に努めることを確認しました。

各ロジ労組からは、構内設備問題やフォークリフト積み降ろし作業についての意見が多く出され、

・そもそも作業ダイヤと業務量が全く合っていない。かなり無理をして作業している。作業ダイヤを見直さなければ、いつか事故は起きる。

・東京ターミナルでは、17・30・00の間、タバコを1本吸うことも出来ないくらい、ほぼぶつ通しで作業している。要員を増やせば解決すると思われるが、フォークリフトの数を増えれば、作業がスムーズに行えないこともあり、列車を減らす・作業ダイヤを見直すことが必要である。

・コンテナ扱い量が増えれば、貨物会社の業績は上がるが、我々の負担は増すばかりである。1度リセットして、作業ダイヤと業務量が、合っているのか検証すべきである。

・架線下でのトップリフター作業は、かなり神経を使う。また、狭い構内でロングコンテナの扱いが増えることが予想され、抜本的な見直しをすべきではないか。

・構内の路面がかなり悪く、走行中、かなり揺れる。コンテナ内の荷物が荷崩れ起こさないよう慎重になるため、さらに作業効率が悪くなる。

・構内の照明が全体的に暗い。

・週末にフォークリフトが壊れても、修理に来るのは週明けとなり、少ない台数での作業となり効率が悪い。

・可能であれば、JR貨物社長にフォークリフトに乗ってもらい、作業内容を見て頂きたい。「百聞は一見に如かず」である。

等々、現場からの切実な意見が多く出されました。

フォークリフトマンが、コンテナを貨車に積まなければ、列車は発車出来ません。貨物連合として早期に改善を図っていくこととします。

尚、貨物連合定期大会開催前に、JR連合内局と貨物鉄道労代表者で「総対話集会」を行い、今後のJR連合ビジョンについて話し合いを行いました。

第29回本部青年部

中央委員会開催

12月1日、稲沢市内において中央本部青年部の第29回中央委員会が開催されました。

来賓として、本部より辻村書記長・JR連合青年女性委員会より島口事務局長が駆けつけて下さり、最近の動向について、激励と連帯のメッセージを賜りました。



島口事務局長



石塚議長

委員会は、議長に東海の石塚氏を選出し議事を進行し、青年部長挨拶後、今期の活動経過・来期の

の活動方針について報告があり、質疑応答では「評価制度」「安全」などについて質疑がありました。執行部より答弁し、その後、スローガン案・来期の活動方針が満場一致で決定され、鈴木青年部長の団結ガンバローで、委員会は成功裏に収めることが出来ました。



鈴木青年部長

・連合「愛のカンパ」のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

各地区本部の取り組み方については、指示書を参照してください。

・全国で危険な事象が連続して発生しています。業務においては、決められた作業手順を守り、安全最優先を心掛けてください。

・12月に入り、飲酒の機会が増えるかと思いますが、節度ある行動をお願い致します。